

立山を望む (国分青厓)

夢見名山四十年 暮投山麓只雲煙
天明日出驚相揖 玉立群仙在我前

解説 立山の麓に宿泊した翌日のあけがた、その山容を望んで感激を述べたもの。

夢に 名山を 見ること 四十年

語釈 ※立山＝富山県飛騨山脈北部の高峰、おやま雄山・べつさん別山・じょうどさん浄土山など連峰の総称。※山麓＝山の下の部分。ふもと。※投＝宿泊する。

暮に 山麓に 投ずれば 只 雲煙

※雲煙＝雲やもや。※天明＝夜明け。明けがた。※揖＝会釈する。中国の会釈の仕方、両手を胸の前で組み合わせて上下し、あるいは、前に推しすすめて先方を敬まう気持を表わす。※玉立＝潔らかに美しく立つさま。※群仙＝多くの仙人。また、素晴らしい山々の集まっているさまをたとえる。

天明 日出でて 驚き 相 揖すれば

通釈 名山にあこがれて、四十年来、この立山を夢にまで見つけ

玉立せる 群仙 我が 前に 在り

てきた。暮れがた山麓に着き、宿から眺めたが、雲や霧が一面にかかって何も見ることができなかった。天が明け、日が出て山の姿が

現われたので、驚いて思わず会釈すると、潔らかな雪に輝く連峰が、並び立つ仙人のように目前に迫っているのであった。